

# 憑靈信仰論



[憑靈信仰論\\_下载链接1](#)

著者:小松 和彦

出版者:講談社

出版时间:1994-3-4

装帧:14.6 x 10.6 x 1.8 cm

isbn:9784061591158

内容（「BOOK」データベースより）

「憑く」という語の本来の意味は、事物としてのものにもともと内在する精霊や、異界の神霊などが、別の事物としてのものに移り移ることを意味していた。本書は、こうした憑依現象を手懸りにして、狐憑き、犬神憑き、山姥、式神、護法、付喪神など、人間のもつ邪悪な精神領域へと踏み込み、憑依という宗教現象の概念と行為の体系を介して、日本人の闇の歴史の中にごめく情念の世界を明らかにした好著。

作者介绍:

1947年東京都生まれ。埼玉大学教養学部卒業。東京都立大学大学院博士課程修了。

現在、大阪大学文学部助教授。専攻は文化人類学・民俗学。著書は『異人論』『悪霊論』『神々の精神史』『説話の宇宙』『神隠し』『日本の呪い』『鬼がつくった国・日本』（共著）など多数。

目録: 1 「憑きもの」と民俗社会

——聖痕としての家筋と富の移動——

1. はじめに
2. 民俗学的研究の若干の問題点
3. 「つき」の基礎的概念
4. 「つき」と「憑依」
5. 聖痕としてみた「憑きもの」
6. 聖性(異常性)の形象化としての「憑きもの」
7. 「憑きものの筋」と「限定された富」
8. 総括と今後の問題

2 説明体系としての「憑きもの」

——病気・家の盛衰・民間宗教者——

1. はじめに
2. 高知県物部村の事例
3. 説明体系としての信仰
1. 病気の説明体系と憑霊
2. 家の盛衰と神霊
3. 民間の宗教的職能者その使役霊
4. まとめ

4 《呪咀》あるいは妖術と邪術

——「いざなぎ流」の因縁調伏・生霊憑き・犬神憑き

1. はじめに
2. 「障り」の病
3. 因縁調伏
4. 生霊憑き
5. 犬神憑き
6. 式王子と式法
7. 若干の考察とまとめ

4 式神と呪い

——いざなぎ流陰陽道と古代陰陽道

1. はじめに
2. 土佐のいざなぎ流陰陽道
3. 「呪咀」のための祭文と儀礼
4. いざなぎ流の「式神」
5. 呪禁道と陰陽道の伝来
6. 陰陽師の活躍
7. 陰陽道の「呪い」と「式神」

5 護法信仰論覚書

——治療儀礼における「物怪」と「護法」——

1. はじめに
2. 『枕草紙』からの事例
3. 調伏儀礼
4. 「護法」——験者の呪力の形象
5. 憑霊としての「物怪」と「護法」
6. 「憑坐」と「夢」
- 6 山姥をめぐって

——新しい妖怪論に向けて——

1. 柳田国男の妖怪論
2. 妖怪——祀られぬ神々

- 3.《神》と《鬼》
- 4.土佐の「山女郎」
- 5.「山女郎」の両義性
- 6.昔話のなかの「山姥」
- • • • • [\(收起\)](#)

[憑靈信仰論\\_下载链接1](#)

## 标签

小松和彦

我就是为了这些学日语的

神秘学

民俗学

日本

文化人類学

人文

## 评论

依然是作者的论文集，围绕“憑靈信仰、憑き物”的不同时期的八篇论文，涉及憑靈的界定（在日本的民俗语境下对人类学的憑靈概念进行了更广阔的界定），憑き物背后存在的民俗社会的深层思考方式（封闭社会下财富的有限性），憑き物作为民间说明体系的三个层面（疾病 家业盛衰 祈祷师的灵力来源），现今仍存在的イザナギ流与古代阴阳道的关系，护法信仰的研究，以及妖怪研究的尝试（山姥和付丧神两篇），早期的论文有很明显人类学痕迹，在用人类学解读繁杂的民俗事象以探求深层的文化思考，小松可谓先驱，给人类学和民俗学搭桥的存在，尤其第一篇奠定研究基调的论文“憑き物と民俗社会”居然是25岁时写的

-----  
[憑靈信仰論 下载链接1](#)

书评

-----  
[憑靈信仰論 下载链接1](#)